

審 議 (会 議) 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県災害医療対策会議
開催日時	平成 29 年 3 月 24 日 (火) 19:00~20:30
開催場所	神奈川県総合医療会館 1 階 AB 会議室 (横浜市中区富士見町 3-1)
(役 職 名) 出席者	<p>神奈川県医師会副会長 菊岡 正和 神奈川県医師会理事 (神奈川県災害医療コーディネーター) 小林 信男 (会長) 神奈川県病院協会常務理事 三角 隆彦 神奈川県歯科医師会理事 村田 拓也 神奈川県薬剤師会副会長 後藤 知良 神奈川県看護協会専務理事 天野 三紀子 (代理出席あり) 神奈川県精神科病院協会理事 山口 哲顕 藤沢市民病院救命救急センター長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 阿南 英明 (副会長) 北里大学病院救命救急・災害医療センター診療准教授 (神奈川県災害医療コーディネーター) 竹内 一郎 神奈川県立循環器呼吸器病センター所長 (神奈川県災害医療コーディネーター) 中沢 明紀 日本赤十字社神奈川県支部事業部救護課長 笹子 敦 第三管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 渋谷 卓矢 (代理出席あり) 神奈川県警察本部警備部危機管理対策課長 奈良 和人 (代理出席あり) 神奈川県消防長会会長 (川崎市消防局長) 田中 経康 (代理出席あり) 横浜市医療局医療政策課 救急・災害医療担当課長 黒岩 大輔 (代理出席あり) 川崎市健康福祉局保健医療政策室担当課長 本山 実 (代理出席あり) 相模原市健康福祉局福祉部地域医療課長 鈴木 泰明 (代理出席あり) 藤沢市保健所地域保健課長 大森利一 神奈川県都市衛生行政協議会代表 (大和市健康福祉部健康づくり推進課長) 目代 雅彦 神奈川県町村保健衛生連絡協議会代表 (大磯町スポーツ健康課長) 山口 信彦 神奈川県鎌倉保健福祉事務所三崎センター所長 小枝 恵美子 神奈川県安全防災局安全防災部災害対策課長 佐川 範久 神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課長 大久保 久美子</p>

次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	保健福祉局保健医療部健康危機管理課 健康危機管理グループ 吉野 電話番号 045(210)4634 (直通) ファックス番号 045(633)3770 (直通)		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
会議の議事	<p>1 議事</p> <p>(1) 報告</p> <p>ア 平成28年度神奈川県災害医療関係事業の報告について</p> <p>イ 熊本地震における医療救護活動について</p> <p>(2) 議題</p> <p>ア 地域災害医療対策会議の所管区域について</p> <p>イ 平成29年度神奈川県災害医療関係年間スケジュール(案)</p> <p>ウ 神奈川県医療救護計画の改定について</p> <p>2 その他</p> <p>ア 第38回九都県市合同防災訓練(平成29年度神奈川県・小田原市合同防災訓練)基本計画</p> <p><あいさつ></p> <p>(大久保健康危機管理課長)</p> <p>○ 当会議は、今回で4回目の開催となる。災害時の医療救護活動、人材育成、研修、訓練等のあり方の検討するため開催するものであります。熊本地震では、医療チームを派遣し、余震が続く、苛酷な環境の中で、活動された方々、派遣に関してご協力いただいた方々に、この場を借りて感謝します。7月13日はDMAT、医療救護班の活動報告会を開催し、課題が見えてきたところです。県医療救護災害医療を取り巻く環境も変化してきており、来年度計画の改定を予定している。地域災害医療対策会議の所管地域、災害関係事業の報告と来年度のスケジュールについても報告する。また、来年度九都県市防災訓練として、大きな規模で開催する予定である。今後、発生する大規模災害では、医療ニーズが急激に増大する。災害時には、医療資源を最大限活用することが求められている。皆様と連携しながら本県の災害行政を推進していく。是非とも忌憚のない意見を頂きたい。今後とも一層のご理解、ご協力をいただきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>○ それでは、議事の進行を小林会長にお願いします。</p> <p>(小林会長)</p> <p>○ この会議は、県の大規模災害に係る大きな会議でございますが、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。</p>		

	<p>(事務局)</p> <p>○ 資料1「平成28年度神奈川県災害医療関係事業の報告について」説明</p> <p>(小林会長)</p> <p>○ コーディネーター会議に番号が付されてるが、過去の実績がわかるよう他の事業についても番号を付したほうがよい。</p> <p>○ 地域災害医療対策会議は、多くの課題があるが、何とか形が出来つつある。今年度の会議は全て終わったのか。</p> <p>(事務局)</p> <p>○ 全ての地域で1回開催している。</p> <p>(小林会長)</p> <p>○ 県が主催しているものか。</p> <p>(事務局)</p> <p>○ そのとおりです。</p> <p>(小林会長)</p> <p>○ 地域災害医療対策会議と県の本部とは連携をとっていく必要があるが、その対策は</p> <p>(事務局)</p> <p>○ 地域災害医療対策会議の事務局となるのは、県保健福祉事務所となる。県保健福祉事務所との担当とは日頃から連携を密にしている。</p> <p>(小林会長)</p> <p>○ 災害協力病院などの指定は少しずつではあるが、増えている。</p> <p>(事務局)</p> <p>○ 資料2「熊本地震における医療救護活動について」説明</p> <p>(薬剤師会 後藤委員)</p> <p>○ 熊本に対して県薬務課にお願いしたところ、薬剤師の出番は、急性期後になるが、薬剤師のチームを派遣する場合、県単位で行われるので、県薬剤師会として先遣隊として、派遣したいので、県から派遣要請してほしいとお願いしたところ、やんわりと断られ、派遣できなかった。このような場合、どのように派遣要請を依頼すればよいのか、教えていただきたい。</p> <p>(小林会長)</p> <p>○ 完全に派遣体制ができあがっていない。コーディネーター会議を作り、災害が発生した場合、コーディネーターが県庁に参集し、業界全体をまとめていこうという発想である。徐々に固めていきたい。薬剤師、看護師、ロジスティックスは必要である。また、新たにDPATもできているので、一元化する必要がある、数年前から神奈川方式としてやってきたことである。先生が言われてことも考案してやっていきたい。コーディネーター会議にも、将来的に入っていくことも考えなければなら</p>
--	---

ない。

(神奈川県歯科医師会 村田委員)

○ 日本医師会の石川理事から歯科医師会も救護班として入ってくださいと言われた。熊本地震の時も歯科医師会として熊本県に行きたいと思っていたが、どこに相談すればよいのかわからなかった。歯科医師会に対しても検討していただきたい。

(小林会長)

○ 歯科の先生ともしっかり連携しなければならない。医療関係者が一つになることが重要である。

(北里大学 竹内委員)

○ 4月16日の本震の日に熊本県災害対策本部に入って、急性期に活動した。DMA T等の慰労チームの派遣に関しては、神奈川県は問題なくできるだろうと考えているが、神奈川県が被災した場合、大きな課題がでてくると痛感している。

熊本県では熊本市が政令都市であるが、神奈川県は、横浜市、川崎市、相模原市の三つの政令市がある。神奈川の場合、政令市の規模も大きく、人員も豊富である。熊本地震でも、急性期では熊本県と熊本市では同じようなことをやり混乱していた。神奈川県でも同様なことが起こると想定される。前もって、役割分担を明確に詰めておく必要がある。このような大きな会議で検討すべきである。

(小林会長)

○ 地域災害医療対策会議を設置したばかりだが、ここが情報や医療ニーズを集めて、医療救護本部の県コーディネーターと調整することとなる。これは、政令市は関係が無いということではなく、県が情報を集約するということが理想的な形である。横浜など進んでいるところとは地域差が出てくるが、基本的なことを固めることが重要である。来年度に向けた大きな宿題としてやっていきましょう。皆が協力することが大事である。

(大久保委員)

○ 医療救護本部の下に地域災害医療対策会議があり、地域災害医療対策会議があり、それと同じような形で政令市があり、それぞれがコーディネーターを設置している。薬剤師会、歯科医師会からの派遣については、県との協定に基づいてチームとして派遣することになる。薬剤師会の派遣については薬務課と相談したい。

(小林会長)

○ 縦割り行政をそのまま推進していくのは困る。情報はコーディネーター会議にあげていただき、そこから情報を発信しなければならない。歯科医師会とは協定があるからそれに従うことになると、バラバラに

	<p>行動する。これでは、今までとは何も変わらない。我々は神奈川県を単一のものと考えている。</p> <p>(菊岡委員)</p> <p>○ 政令市も14大都市協議会があり、協定を結んでいる。災害時に政令市同士のチームが来ることになる。やはりそこは、県のコーディネート機能を通してこないといけないと思う。そのことを考える必要がある。</p> <p>(事務局)</p> <p>○ 資料3「地域災害医療対策会議の所管地域について」説明 (小林会長)</p> <p>○ 昨年、この会議で地域災害医療対策会議を設置することを諮っている。茅ヶ崎保健福祉事務所の廃止により、湘南東部地域を二つに分ける必要がある、本来は2次医療圏でやるべきことであるが、地域での考え方があるので、なるべく柔軟に対応し、地域の事情を認めていくことは話している。</p> <p>(薬剤師会 村田委員)</p> <p><議事></p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 神奈川県災害医療対策会議設置要綱</p> <p>資料2 地域の災害医療救護体制の強化について</p> <p>資料3 茨城県鬼怒川の水害に対するDMAT派遣について</p> <p>資料4 神奈川県地震防災戦略について</p> <p>資料5 箱根大涌谷の防災対応について</p> <p>資料6 かながわDPATの体制整備について</p> <p>資料7 「マイME-BYOカルテ」の提供について</p> <p>参考資料 神奈川県災害医療対策会議傍聴要領</p>

--	--